

| |
|---|
| 1 文献名 |
| 『百年史 梶賀小学校』 |
| 2 学校名 |
| 梶賀小学校 |
| 3 災害名 |
| 明治 32 年（1899 年）紀伊大和地震 |
| 4 記述の概要 |
| (1) 雨や風、地震などの様子 |
| はじめは水平に、後には上下に揺れたように思う。(P38) |
| (2) 学校内や地域の被害の状況 |
| 避難した後、通った石橋がうげた。(P38) |
| (3) 復旧の様子 |
| |
| (4) 体験談 |
| 小学校で勉強している時、大きな地震があった。 先生の「伏せ。」という大きな声で、みんながはっと伏せた。こんどは「出よ。」という声で、学校の石段をかけ下りて避難した。おそろしくて、おそろしくて歩くことができず、姉におんでもらって帰った。(P38) |
| (5) 教訓など |
| |
| (6) その他 |
| |

| |
|--|
| 1 文献名 |
| 『百年史 梶賀小学校』 |
| 2 学校名 |
| 梶賀小学校 |
| 3 災害名 |
| 昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風 |
| 4 記述の概要 |
| <p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>ちょうど満潮時にかかって吹き荒れた台風は、ものすごい高潮となって、湾内に押し寄せてきた。湾口から押し寄せる風と波は、引き下がることなく、蛇行してますますふくれ上がり、湾奥を目指して押し寄せた。（P88）</p> |
| <p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>梶賀の台風による被害は、『梶賀浦漁業組合陳情書』によると、全壊・流失住宅 18、半壊住宅 14、床上浸水住宅 19、床下浸水住宅 13、流失共同漁網及び資材倉庫 9、流失個人所有漁網倉庫 7、半壊共同施設（貯水庫、鮮魚販売所、漁協事務所）、半壊個人所有漁網倉庫 2、防波堤崩壊、網干場流失 3 箇所、など。（P89）</p> <p>特に、一部の海岸すじから奥の川の川口をはさむ両側一帯は、ほとんどが流失・全半壊の憂き目にあった。組合の階下は全くがらんどうになり、四、五人してやっと持ち運べるほどの大金庫は、宮さん前まで運ばれてしまった。</p> <p>波にもまれ家の前に突っ込んできた丸太に打ち当たり、けがをした。海岸に一人で住んでいた老石工が行方不明になった。（P88）</p> |
| <p>（3）復旧の様子</p> <p>梶賀浦漁業協同組合組合長から、伊勢湾台風の被害早期復旧と全額国庫補助を陳情した。（P89）</p> <p>漁協として組合員の救済に当たり、滋賀県八日市より瓦一万枚を購入し、組合員に対して後払いで譲渡、復旧資金として、大敷発行の証券を担保として最高 5 万円まで貸し付けた。漁業救済として共同漁船を建造し、組合員の営業の資とした。（P153）</p> |
| （4）体験談 |
| （5）教訓など |
| （6）その他 |

| |
|--|
| 1 文献名 |
| 『百年史 梶賀小学校』 |
| 2 学校名 |
| 梶賀小学校 |
| 3 災害名 |
| 昭和 19 年（1944 年）昭和東南海地震 |
| 4 記述の概要 |
| <p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>地震が起こったとき、身が倒れそうで、歩くことができなかった。池の水が激しく動揺した。地震がやんでから 15～16 分して津浪が襲来した。浜はすでに海水が盛り上がり、浜の隠居の石垣いっばいに浸水、常盤橋の上も浸った。向井で 3.2m、奥の橋付近で 2.5m 位上った。第一回目の浪が引いてしまうと、宮の浜の堤防沖合まで海の底があらわれたが、順次干満の度合も小さくなった。第二回目の浪は高さ六七尺、第五回目に至って平静に復した。（P64）</p> <p>夜に入っても大小の地震が 15、16 回揺った。（P65）</p> |
| <p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>第一回目の津浪で、海岸にあげてあった船、船具、木材、ドラム缶、網等は流失して海上を漂い、奥の川深く押し流されて打ち揚げられた。</p> <p>1 名が崩壊土砂の下敷きになって死亡、流失家屋 1、浸水家屋 6、倉庫浸水 2、船舶（和船）3 せき破損、屋根崩壊（部分）5 箇所、畑地崩壊（部分）57 箇所。</p> <p>翌日 8 日未明にモーター船で賀田や曾根に行ったが、海上には流失した木材、倒壊家屋、家具などが無数に浮かんでいて、船の航行が困難であった。</p> <p>この地震で海岸の地面が約 1 m 沈下し、古来船を陸揚げできた個所も満潮になると約 1 m 増水して不能となってしまった。（P65）</p> |
| <p>（3）復旧の様子</p> |
| <p>（4）体験談</p> <p>地震が揺りやんだ後、家の戸締りをして裏口から畑伝いに、梶賀の中での安全地帯として村中の人達の避難場所である、曾根道のオオダへ避難した。</p> <p>婦人会の役員会に出席していた人たちは、帰る途中網代までくると浸水して通れないので、上の山を通過って梶賀道に出たとき、煙幕を張ったように白くなって、賀田は一寸も見えなかった。（P64）</p> |
| <p>（5）教訓など</p> |
| <p>（6）その他</p> |

| |
|----------------------------------|
| 1 文献名 |
| 『百年史 梶賀小学校』 |
| 2 学校名 |
| 梶賀小学校 |
| 3 災害名 |
| 昭和 47 年（1972 年）9 月の豪雨 |
| 4 記述の概要 |
| （1）雨や風、地震などの様子 |
| （2）学校内や地域の被害の状況 |
| 集中豪雨により山崩れが発生し、全壊や中破の家屋が出た。（P99） |
| （3）復旧の様子 |
| （4）体験談 |
| （5）教訓など |
| （6）その他 |